

アコヤガイへい死対策に向けた飼育試験調査結果

(調査日：令和3年7月26日・8月10日^{注)})

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 目的

- アコヤガイの大量へい死対策として、高水温期に母貝養殖の実態がない海域へ避難させることによる、リスク分散の有効性について検討する。

2 試験区の設定

- 宇和海北部の西予市2地点、宇和島市の2地点とし、比較のため瀬戸内海の1地点（水産研究センター栽培資源研究所：伊予市）を含めた。
- 各地点に1～2種類の、日中交雑貝系統を垂下し、地点間、系統間で比較を行った。

3 調査結果の概要

- 調査した地区すべてで、大量へい死は見られていない。
- 西予で数%、宇和島で20%の死亡があるが、おもに小型の個体であり、通常の飼育管理でも生じる範囲。
- 伊予市を除く各地区の一部の系統で、出現率は低いものの、外套膜の萎縮や貝殻真珠層の褐変が確認された。

漁場	地区	地点数	系統	系統数	外套膜萎縮個体 出現率*	褐変個体 出現率*	へい死率
北部	西予市	2	日中交雑貝	4	0%	0-5%	0~数%
	宇和島市	2	日中交雑貝	4	0-10%	0-25%	0~20%
瀬戸内海	伊予市	1	日中交雑貝	1	0%	0%	0%

4 調査方法

- 水産研究センター職員が各漁場を回り、貝の状態、へい死率を確認するとともに、地点及び貝の系統毎に20個体を水産研究センターに持帰り、貝殻及び貝肉の状態を調査。

^{注)} 北部4地点の調査は7月26日、伊予市は8月10日に実施。